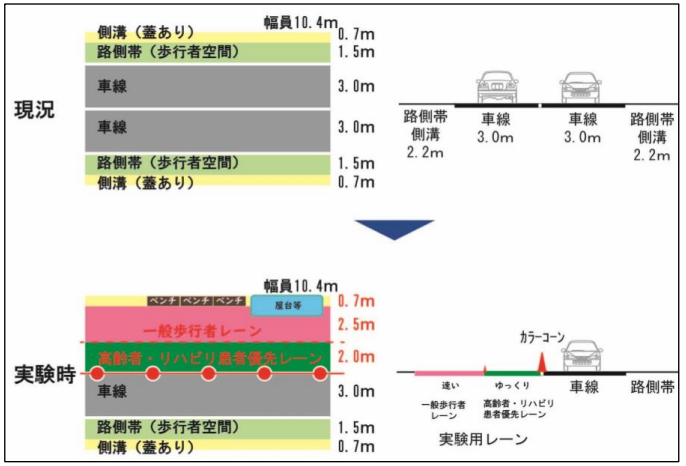
# 【単年度】医療・介護従事者と協働する高機能ヘルスロード創出に向けた社会実験（茨城県）

## 1. 実験概要、留意すべき項目

- リハビリ患者優先レーンの設置及び歩行補助車走行実験により、健常者とリハビリ患者、高齢者が一緒に安全に歩くことができる道路構造を検証する。
- 大型のベビーカートや歩行補助車等の実験が多様なモビリティの混在する空間の参考事例となること。

## 2. 実験内容、実験結果

① 高齢者、リハビリ患者優先レーンの設置
⇒満足度が高く、近隣住民・店舗の受容性があり有効
② 歩行補助車の走行実験
⇒一般歩行者との共存が可能
③ 道路空間内への休憩施設の設置
⇒医療従事者、参加者から良好な回答を得た
④ オープンカフェ等の道路空間の利活用
⇒外出機会、歩行意欲の増加につながる



実験用レーンの設置イメージ（左：平面図、右：横断図）

歩行補助車の乗車体験

キッチンカー

高齢者、リハビリ患者優先レーン

## 3. 意見と検討、対応方針

| 意見 | 意見に対する検討、対応方針 |
|---|---|
| 周辺地区から実験地区までの歩行経路についても段差の解消等に配慮する必要がある。 | 今後、面的なバリアフリー化について検討する。 |
| 社会実験は1回のみではなく，継続的に実施してくことが有効である。 | 関係者と調整し，今後の社会実験の実施について検討する。 |
| 将来の道路計画について，実験時にパネル等を展示し，説明、PRすることが有効である。 | 実験地区内の3か所に，道路計画についてパネルを設置した。 |

# 【単年度】医療・介護従事者と協働する高機能ヘルスロード創出に向けた社会実験（茨城県）

## 4. 本格実施に向けた課題、今後の取り組み予定

| 課題 | 対応方針 |
|---|---|
| 高齢者・リハビリ患者優先レーンの具体の設置方針（限られた幅員の中でのレーンの幅員構成、レーンの位置、区分方法、舗装方法） | 実施に向けて，市，地域，医療従事者等との協働を継続する。 |
| 歩行補助車の普及に伴う走行空間の確保 | 実施に向けて，市，地域，医療従事者等との協働を継続する。 |
| 休憩施設の具体の設置方法（休憩施設の形状、設置間隔） | 実施に向けて，市，地域，医療従事者等との協働を継続する。 |
| オープンカフェ等の滞留機能の向上策の継続的な実施 | 道路空間やまちを活用した賑わい，滞留の創出に向けた取り組みの内容と，取り組みを持続するための運営組織について検討する。 |

## 5. 今後のスケジュール

- 令和3～7年度：駅周辺道路の利活用、マネジメント方法の検討
- 令和3～4年度：駅周辺道路（都）大宮停車場線（県道小場大宮停車場線）の整備方針の検討
- 令和3～7年度：（都）大宮停車場線の整備
- 令和7年度：駅周辺道路の利活用（社会実験）
- 令和8年度：駅周辺道路の利活用、マネジメントの本格実施

## 6. 制度改正、マニュアル作成、全国展開に向けた提案

- 全国には多様なまちがあり，歩行空間の機能も多様なニーズがあると想定され、今後，今回の実験と同様に，歩行空間を区分して，まちや歩行者の特性を踏まえた通行の実験と検証を重ね，歩行空間の機能向上を図ることが望まれる。